

★ 特別支援学級における端末の利活用 ★

特別支援学級、通級指導教室においては、児童生徒が「視覚優位なのか聴覚優位なのか」、「継次処理タイプなのか、同時処理タイプなのか」等、実態をよく見極めながら、端末の利活用を図ることが大切です。

★ 「端末で位取り表を活用」

算数の授業の中で、ロイロノート上に位取り表を作成し、百の位や十の位の枠の中にドットを動かしたり、数字を書きこんだりしていきます。紙の位取り表の上でカード等を動かすよりも、操作が簡便なことから集中が持続しやすくなります。



★ 「文章作成時に端末を活用」

文章を作成する際に、端末で下書きをする活用場面が増えてきています。文の加除修正の負担が軽減されることで、文字の読み書きが苦手な児童生徒は学習意欲を持続することができます。

また、ロイロノートを活用して、段落ごとに色分けしたカードを並べ替えて文章構成を考えることは、文章の「型」を習得する際に効果的です。



児童生徒の困難さの実態に応じて、「下書きは端末を活用し、清書は紙に書く」等、デジタルとアナログを使い分けながら学習を進めていくことが大切です。児童生徒が自身の得意、不得意について理解した上で、学び方を自己選択できるようにしていきましょう。

★ 「語彙指導に端末を活用」

言葉と意味を結び付けることへの困難さが要因で、語彙の量が不足している児童生徒がいます。そのような児童生徒に対しては、絵や写真を用いた語彙指導が有効です。

Google スライドや、ロイロノート等を活用し、教師は言葉と共に絵、写真をスライドショー形式で提示していき、画面に映し出された言葉を児童生徒が読み上げていくことで、言葉と意味を結び付けて語彙を獲得していくことが期待できます。



自立活動や国語科の授業の中で、短時間、繰り返し取り組んでいきましょう。

★ 「『見えづらさ』の支援のために端末を活用」

児童生徒の中には、視力が弱かったり、白地の紙や端末の白地の画面背景にまぶしさを強く感じたりして、長時間学習に集中できない児童生徒もいます。

Chromebook では、端末の画面をピンチアウトして文字や写真を拡大できるほか、「白黒反転」機能を活用して、文字を見やすくすることもできます。（※ デバイスの「設定」>「ユーザー補助機能」>「表示と拡大」>「色反転」）。ほかにも、「ゴシック体」や「UD フォント」（※「フォント」>「その他のフォント BIZ UDP ゴシック」）等を利用して文字を読み易くすることも、児童生徒の「見えづらさ」を支援するために役立ちます。



どのような学習場面で端末を活用すると効果的なのか、また、どのような情報活用能力を付けさせていけばよいのかを、個別の指導計画内に明示していきましょう。

*「情報活用能力体系表【釧路市版 第1版】（釧路教育研究センター R5.4 月発行）」を参考にしてください。（右QRコードよりダウンロードが可能です。）

